

## 研究室紹介



### 群馬県衛生環境研究所 水環境・温泉研究センター 大気環境係

今回紹介するのは、群馬県前橋市にある群馬県衛生環境研究所の大気環境係です。昭和46年に群馬県公害研究センターとして発足し、その後、衛生研究所との統廃合、改称を経て、現在の衛生環境研究所に至ります。

また、平成18年には環境関係業務の発展や環境研究体制の充実を図るため、研究所内に水環境・温泉研究センターが設置されました。このセンターの下に水環境係と大気環境係があります。

#### ◎ 主な業務

当係の業務は、有害大気汚染物質調査、酸性雨(霧)調査、アスベスト調査、関東SPM合同調査、工場・事業所周辺環境調査、悪臭、環境放射能調査など多岐にわたります。職員自らが県内各地に赴いてサンプリングをし、試料を持ち帰って研究所で様々な分析を実施したり、データ解析を行います。(野外作業が多いので、夏には日焼け止めクリーム、冬には防寒着が必需品です。)一昨年の福島第一原発事故以降は、緊急時対応のため業務の大半が放射能調査でしたが、現在は放射能に関連する業務も落ち着いてきました。

#### ◎ 研究体制

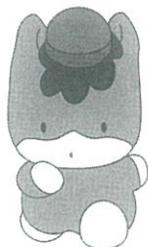
職員は担当業務をこなす一方で、それぞれにテーマを持ち研究にも取り組んでいます。当所の研究体制の特徴として、特別研究制度が設けられています。今年度は所内審査を経て研究所全体で5テーマが採択され、その中の一つとして、PM<sub>2.5</sub>に関する研究を現在実施しているところです。この研究では、PM<sub>2.5</sub>中の有機粒子に着目し、動態や発生源の解明に取り組んでいます。

#### ○ 群馬県の大気環境について

群馬県の大気環境を考える上で重要なのは、関東平野の一番内陸に位置することです。関東平野では夏に大規模海風が発生し、関東沿岸地域で発生した大気汚染物質は内陸へと輸送されるため、内陸地域ではローカル汚染と広域汚染の影響を考えなければなりません。実際に群馬県では高濃度光化学オキシダントの発生や二次生成粒子の寄与が問題となっています。このため、広域的な大気汚染の解明にも取り組む必要があり、関東地域の地方環境研究所や国立環境研究所、電力中央研究所、埼玉大学などとの共同観測にも参画しています。

○ 今年度新たに始めた研究の一つに大気環境学習があります。これは次世代を担う子供達に大気環境への関心を深めてもらうことを狙いとしています。「空気の汚れを知ろう!」ということで、普段何気なく吸っている空気中のSPMを捕集する体験型の学習プログラムを企画実施しました。

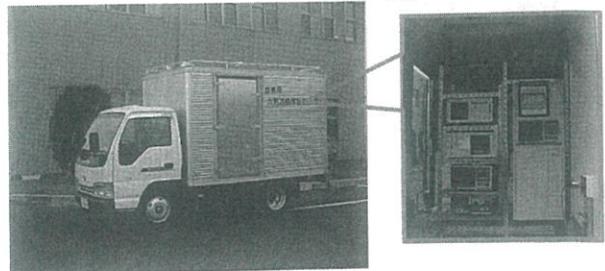
当研究所の大気担当の職員数は4名です。他の地方環境研究所に比べると、かなり少ない人数体制で日々の業務をこなしています。少数精鋭?かどうかは分かりませんが、これからも地域の環境を守るため、地方環境研ならではの大气研究に積極的に取り組んでいきたいと考えています。(群馬県衛生環境研究所 熊谷貴美代)



群馬県のマスコット  
ぐんまちゃん



体験型大気環境学習の様子



大気汚染移動観測車



群馬県衛生環境研究所



国設赤城酸性雨観測所



有害大気汚染物質調査



PM<sub>2.5</sub>調査